

平成 23 年 10 月 21 日 静岡新聞

ウェアやシューズ バンングラで復活へ

清水商高がプロジェクト

11.10.21

部活動を引退して使わなくなったトレーニングウェアやシューズをバンングラデシュに送り、再利用してもらう「BUKATSUアイテム復活プロジェクト」が今月、静岡市清水区の市立清水商高で本格的に始動した。市内在住のバンングラデシュ人らが橋渡し役になり、来年初めにも第1陣を現地へ向けて送る。

使わなくなったウェアやシューズなどを持ち寄る生徒―静岡市清水区の市立清水商高



と、2人が中心となった呼び掛けに清水商高が応じ、今年の夏から各運動部に働きかけ、準備を進めてきた。初の回収日になった20日は、昼休みに生徒たちが段ボールやビニール袋にいっぱいになったウェアや靴を持ち寄り、1日でウェア11箱、シューズ6箱分が集まった。仕分けを担当する生徒会の若林侑弥会長は「予想以上の量が集まりうれしい。少しでも僕たちの服や靴が役になれば」と満足げに語った。

年明けに第1陣部活動の不用品送る

プロジェクトは、清水けニアズさんによると、商高OBで同市の会社社 首都タツカの北東約35キロ長宿田雅穂さん(43)が、にある出身地のナルシン知人で飲食店など経営す ディでは、貧富の差が激るバンングラデシュ人のニしく、スポーツ用のウェアズ・アハメドさん(40) アヤシューズを用意でき同市から、現地の話 ない人も多いという。を聞いたことがきっか 現地に運動用品を送ると抱負を語った。



高校生が部活動で使用し、使わなくなったトレーニングウェアやシューズを出身地のバン格拉デシュ・ナルシンディへ送る「BUKATUアイトム復活プロジェクト」の中心メンバー。留学のため来日、現在は静岡市内で飲食店や服飾店を経営

この人

する。40歳。
「プロジェクトの発足にはどんな背景があるか。」
「バン格拉デシュは経済成長が進む一方、貧富の差も広がっている。出身地も高級ホテルの真横にスラムがある状態。古着でも喜ばれ、故郷の役

不用になった運動用品を バン格拉デシュへ送る

ニアズ・アハメドさん(静岡市駿河区)

に立ちたいと考えた」
「今後の計画は。」
「第一弾として、清水商高で回収した品物は、来年初めに計画している市バン格拉デシュ交流協会の訪問団に同行して、現地を手渡す予定になっている」
「バン格拉デシュの良いところは。」
「人々が優しく温かいところ。日本人と似ていると思う。日本にいい印象を持つ人も多く、静岡とバン格拉デシュの交流を深めていきたい」
◇ 自身もスポーツが得意。学生時代はサッカーやバドミントンに熱中した。

平成 24 年 1 月 24 日 静岡新聞

部活の不用品 提供呼び掛け

1/24

清水商生徒会

3月に
再回収

市に協力要請

プロジェクトは、部の
活動を引退して使わな
くなった衣類や靴など
の反響があるという。
卒業時期となる今年3
月に提供を呼び掛け、
現地に送る予定。

昨年10月に活動を始
め、取り組みを報じた
ニュースを見た県内外
の高校などからも「活
動に賛同したい」など
の反響があるという。

静岡市立清水商高の生
徒会役員らが23日、市役
所静岡庁舎に田辺信宏市
長を訪ね、同校が始めた
「BUKATSU(部活)
アイテム復活プロシエ
クト」の経過報告と活動推
進に向けた協力を訴え
た。



不用になった部活用品の回収活動への協力を
呼び掛ける清水商生徒会関係者ら

静岡市役所静岡庁舎

を担当した前ホームル
ーム対策委員長の大滝
周平さん(18)、現委員
長の鈴木悠太さん(17)
らは「資源リサイクル
の新しい形といえる。
清商モデルとして全国
に発信したい」と話し、
現地に送る際の資金援
助や活動を機に、バン
グラデシュとの交流促
進などを求めた。

田辺市長は「支援の
在り方を考えたい。ア
ジア各国を提供先に広
げられる可能性もあ
り、今後の展開に期待
している」と語った。

